

オーストラリア首相ケビン・ラッド閣下歓迎晩餐会 概要報告

1. 開催日：2008年6月11日（水）19:00～21:00
2. 開催場所：帝国ホテル 光の間（東京都千代田区内幸町1-1-1）
3. 出席者：総勢170名
4. 概要：晩餐会は着席正餐形式にて行なわれ、食後に日豪経済委員会 今井会長から歓迎あいさつがあり、続いてラッド首相からスピーチが行われた。スピーチ要旨は下記の通り。

今井会長 歓迎あいさつ

昨年12月の首相就任以来、初めての訪日を心から歓迎する。日豪両国は今日までに大変緊密な関係を築いているが、一方、世界経済を取り巻く環境は急速に変化している。現在、日豪両国にも深くかわる問題として、食料・資源価格の高騰と地球温暖化が挙げられる。前者に関しては、先日、日豪経済委員会主催で「わが国の食料と資源のパートナー：オーストラリア」と題したシンポジウムを開催した。食料・資源の将来にわたる安定的な確保を考える上で豪州は極めて重要であること、また特に現在交渉中の日豪経済連携協定（EPA）の早期締結は、両国の戦略的関係の更なる強化に貢献するものであることを広くPRした。後者については、首相就任早々に京都議定書を批准されたことを歓迎するとともに、京都議定書以降の議論について、「アジア太平洋パートナーシップ」によるセクター別アプローチの推進により、産業活力を削ぐことのないような議論になることを期待する。



ラッド首相と主催・後援団体代表

ラッド首相 スピーチ

豪州は08/09年度、2.75%の経済成長を達成する見込みであり、これは17年連続の成長を意味する。私たちの新政権は、豪州がグローバル経済の中で競争力を保持するため、経済改革プロジェクトの刷新に専念する。日豪経済関係においては、資源・エネルギー分野はもとより、将来的にクリーン・環境保全技術、バイオテクノロジー、フードテクノロジー、教育の輸出、そして金融サービスの分野に目を向けるべきと考えている。資源・エネルギーの伝統的に強い分野と、サービスと高付加価値分野を基礎とする経済連携を創造するため、両国経済の補完性を、教育水準の高い労働力と革新的で才能ある企業家へと結びつけていくようにしなければいけない。

日豪FTAについて、豪政府は包括的で高水準な協定を日本と締結しようとしている。それはモノの貿易を増やすということだけではなく、投資障壁を取り除くもの、サービス貿易の成長を加速させるもの、そして経済協力の新たな領域を開発するものと見るべきである。また、豪州から日本への食料の安定供給に大きく貢献し得るもので、日本の農業の競争力向上を奨励するものと思われる。両国経済関係の中にセンシティブな分野があることを承知しているが、今の関係を活かせば切り開く道はあるはずである。

私はAPECの強い擁護者である。日本は2010年にAPEC議長国となるが、東アジアサミット、ASEAN+6でのFTAに関する日本のイニシアティブ、域内の金融財政協力等についても、日豪両国は緊密に協力している。APECの目標とする2020年の自由で開かれた貿易及び投資を念頭に、2020年以降のアーキテクチャーを視野に入れた、私が提唱するアジア太平洋コミュニティについて、さらに緊密に協働できるものと期待する。

いずれにせよ、日豪経済関係をさらに強化していくにあたり、私は経済界の皆様を政府のパートナーとして見ていることについて確信いただきたい。